

腎臓専門医後期臨床研修プログラム（腎臓内科）

文責：佐藤 衛

1. プログラムの目的と特徴

目的：腎疾患、透析患者の診療、治療を行い腎臓専門医としての必要な知識、技術を習得すること。

特徴：1) 腎臓内科では原発性および続発性腎疾患の診断および保存期腎不全の管理および透析治療を行っている。

2) 当院における年間の腎生検件数は約60例、透析導入数は約100例、維持透析患者数約130例であり多彩な腎疾患について研修できる。

3) 当院は日本腎臓学会の認定施設となっており、また臨床研究（単独研究および全国規模の共同研究）、指導（各大学医学部学生、初期および後期研修医）、腎疾患に関する病診連携（症例検討、講演など）、学会および論文発表（国内および国際学会）を行っており、学術的にも研修できる。

4) 腎疾患の診療では、糖尿病、膠原病、内分泌などの他科に亘る学習および全身管理ができる。

2. 取得できる専門医

腎臓専門医

3. 専門医取得の要件

1) 日本の医師免許を有し、医師としての人格及び見識を備えていること。

2) 日本腎臓学会の会員歴が継続して5年以上であること。

3) (社)日本内科学会認定医取得後3年以上、(社)日本小児科学会専門医、(社)日本外科学会専門医、および(社)日本泌尿器科学会専門医は取得後1年以上であること。

4) (社)日本腎臓学会が指定する研修施設において、研修カリキュラムに基づく研修を3年以上行っていること。

4. プログラムの研修内容

<研修1年目>

1) 尿所見の見方（蛋白尿、血尿、沈渣）、腎機能検査、水電解質代謝に関する各種ホルモンの基礎知識の習得、腎生検検査および組織の読影。

2) ネフローゼ症候群、慢性腎炎、腎不全（急性および慢性）および透析患者に対する食事療法、薬物療法の施行。

3) 血液透析の導入および維持を行う。

4) 糖尿病、高血圧、膠原病など続発性腎疾患を来す全身性疾患の知識の習得。

5) 腎臓内科での後期研修は入院患者の担当医として5ないし10名受け持ち、検査計画、治療計画をたて研修する。

<研修2年目>

1) 腎生検を独自に行い、組織像の読影会を通し腎疾患の診断能力を向上させる。

2) 透析導入を判断、施行し、またシャント増設を行い維持透析の管理を行う。

3) 週1回程度の外来を担当し、腎疾患患者の診断、治療から透析診療までの一連の流れを研修する。

4) 学会での発表及び論文作成を行う。

<研修3年目>

上記に加え、腎疾患に関する臨床研究を行い、学会での発表更に論文を作成する。

5. 指導医・専門医・認定医取得医師名

佐藤 衛（日本腎臓学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医、
日本内科学会総合専門医、日本高血圧学会指導医）

永路正明（日本腎臓学会専門医、日本内科学会総合専門医）

6. メッセージ

腎疾患は末期まで症状が出現せず、症状が現れた時点では回復不可能であることが多いため早期発見、早期治療が非常に重要です。現在腎疾患に対しての根治療法、特効的薬物治療はないため、病態に応じ症例に応じての治療が重要であり、さらに新たな治療法を創出することが求められており、生化学的、生理学的知識も吸収、同化する必要があります。また、慢性疾患であることより患者さんとの継続した治療が必須であり、そのため人間関係を良好に保ち、医学的知識のみならず幅広い人間としての資質が求められる分野であって、特に透析治療では末期腎疾患のため生命維持の治療であることより、終末治療としての側面も持ち、やりがいのある分野です。